

夢をかなえるために 学んだことを 自分の言葉で 語る子どもを育てる

学校教育目標

「夢もち たくましく」

心を磨き  
知性を高め  
身体を鍛え  
共に生きん北広島市立  
東部中学校

# ひろがり

## コロナ禍だからこそ得られる学びを 『臨機応変』と『油断大敵』を心にとめて

東部中学校長 北村 安雄

10日間の短い夏休みを挟んで、二学期が始まりました。

3年生は、道東方面への修学旅行に行っております。今学期は、様々な行事も工夫しながら行う予定でいます。様々な制約はありますが、行事を通じて、できる範囲の中で、精一杯取り組む東部中学校の良さ、そして、笑顔や輝きがたくさん見られることを期待したいと思います。

とはいえ、夏休みの10日間の間にも、全国的には感染が拡大し、医療体制の逼迫が危惧されている地域もあります。先の見通しが持てない状況は、これまでと変わりません。臨機応変に、かつ、油断しない生活を心がけなければならないと思っています。

一学期の終業式の日、3年生の代表生徒が、コロナ禍での生活を通じて「普段の生活がどれだけ恵まれていたのか実感した」「忙しい、時間がないと感じていた生活すらも幸せだという考えに変化した」と述べていました。「だからこそ、卒業までの生活を思い出に深く残せるように全力で送りたい。」と話していて、大変感心しました。

平成時代に起きた、阪神淡路大震災や東日本大震災では、歴史に残る甚大な被害が出ました。過酷な環境の中で、そのときを送った中学生は、大変な苦勞をしながらも、「その後の人生の転換点になった」人が多くいると聞きます。

「本当に大切なものは何か。」「これまで、自分はどう生きてきたのか、そして、これからどう生きて行こうとしているのか。」「亡くなった人、支えてくれた人たちのために何ができるのか。」「・・・平穩に過ごしていたならば、おそらく、考えることのない問いと向き合ったといいます。困難な経験が、その後の生き方を決め、生きる原動力となったのです。



新型コロナウイルスによる世界的なパンデミックは、死者の数や経済や社会に与えている影響の大きさを考えれば、間違いなく歴史上の転換点になるようなできごとです。学校生活においても、たくさんのものを失っているのは事実ですが、みなさんには、それを乗り越え、コロナ禍だからこそ、気がつけたこと、学べたことを見つけてほしいのです。

二学期は、4ヶ月半に及ぶ長丁場になります。健康や安全を第一に、楽しく充実した二学期になることを心から祈っています。